



高村光太郎と

藤井達吉との関係

碧南市藤井達吉現代美術館では、平成25年11月に「生誕130年、彫刻家・高村光太郎展」を開催しました。その結果、歴代第3位にあたる1日平均426人、総計1万6千600人余りの観覧者がありました。

高村光太郎は、彫刻家、詩人であり、特に「道程」「知恵子抄」などの詩集は、小中学校・高校の教科書に頻繁に出てくるので、大変有名です。光太郎は、1883年、東京芸術大学教授となった彫刻家・高村光雲の長男として東京で生まれ、肺結核を患い、1956年73歳で死去。

実は、光太郎は碧南市出身の総合芸術家・藤井達吉と深い関係を持っています。達吉は、1881年に榎尾村で、米屋の三男として生まれ、83歳で亡くなっています。光太郎よ

り2歳年上。達吉の家はあまり裕福ではなく、学校での成績は大変優秀でしたが、小学校を卒業して働きに出ます。17歳の時、名古屋の服部七宝店で働くようになってから、達吉の芸術的才能が開花します。その後、24歳の時、東京に出て、七宝や工芸品を作成しながら美術の勉強に励みます。

この東京時代に達吉は、光太郎と深いつながりを持ちます。当時、光太郎は、東京で美術店を開いていましたが、そこで達吉の工芸品が売られていました。また、1908年に工芸研究団体「吾楽会」が結成されますが、この団体に光太郎と達吉は加入して、一緒に活動しています。

さらに、1912年、光太郎や岸田劉生によって先進的な美術集団「ヒュウザン会」が創設されましたが、当時31歳の達吉もそのメンバーの一人として参加しています。

以後、達吉は、木工、陶芸、和紙、日本画、油彩画など幅広い分野で活躍し、1929年、48歳の時、武蔵野美術大学の図案工芸科の教授になっています。昨年は栃木県宇都宮美術館で、今年は渋谷区松濤美術館、岡崎市美術館などで藤井達吉展が開催されます。

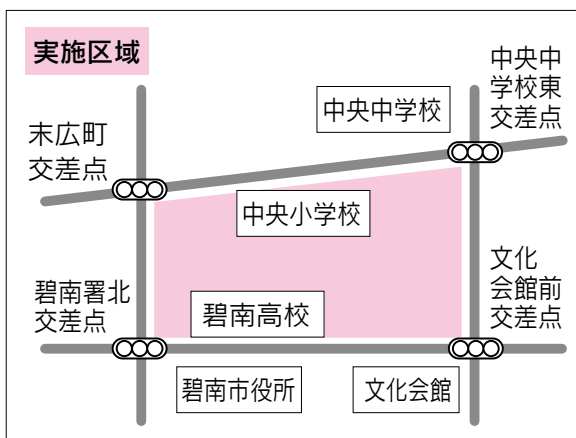
郷土の偉人も大したものです。達吉翁の今後のブレイクを期待します。

碧南警察署からのお知らせ

問合せ 碧南警察署交通課 ☎(46)0110

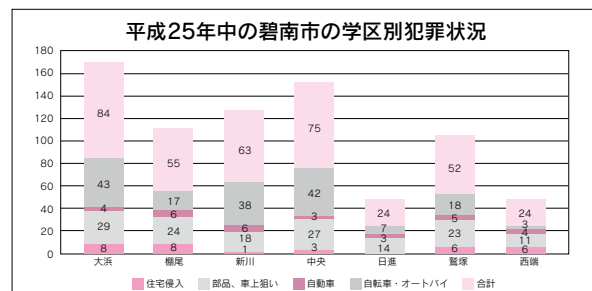
平成26年3月中旬から中央地区で「ゾーン30」を実施します。

ゾーン30とは、生活道路における歩行者などの安全な通行を確保するために、区域（ゾーン）を定めて30kmの速度規制と道路の整備（カラー舗装）の安全対策を組み合わせ、速度抑制やゾーン内の抜け道通行の抑制を図る生活道路対策です。



碧南警察署だより

問合せ 碧南警察署生活安全課 ☎(46)0110



●自転車盗被害が大幅に増加

～カギかけが被害を防ぐキーポイント～

碧南市では自転車の施錠なし被害の割合が、約7割（県下平均は約5割）と非常に高くなっています。確実な施錠をお願いします。

●車上ねらい・部品ねらいが多発

～駐車場に防犯カメラ・センサーライトを設置～

鍵穴をこじ開けられ、車内に置いてあった鞆や現金が盗まれています。被害を防ぐため、車内に貴重品を放置しないようにしましょう。

●空き巣被害にご用心

補助錠・防犯フィルムで被害を防止しましょう。